



平成26年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成26年4月22日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語・算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたのでお知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

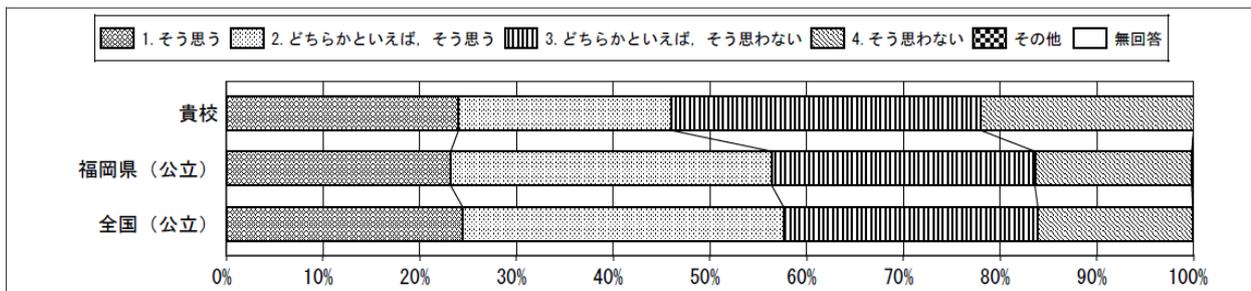
1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査結果と分析

カテゴリー	全国平均との比較	学力調査の分析(傾向や特徴)
国語A	全国平均正答率をやや下回っている。	全国平均得点率をやや下回るものの、「話すこと・聞くこと」の学習では、全国の平均得点率を少し上回っていた。全体的に、適切に書き力、目的に応じて的確に読む力等をさらに身に付けていくことが必要である。
国語B	全国平均正答率をやや上回っている。	「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化や言葉の知識・理解等に関すること」の学習については、全国平均得点率とほぼ同等か、少し上回る傾向にあった。記述式問題も、全国の平均得点率よりわずかではあるが、上回っていた。
算数A	全国平均正答率をやや下回っている。	「量と測定」の学習問題を解くことについては、全国平均得点率よりも上回っていたが、「図形」及び「数量関係」の問題解決については、やや課題がある。
算数B	全国平均正答率をやや下回っている。	身に付けている知識・技能等を活用して問題解決する学習では、「図形」の学習において、全国平均得点率を上回っていた。「数と計算」「量と測定」「数量関係」の学習では、全国の正答率をやや下回る傾向にあった。

② 学校における学習状況に関する調査結果と分析

Q. 学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか。

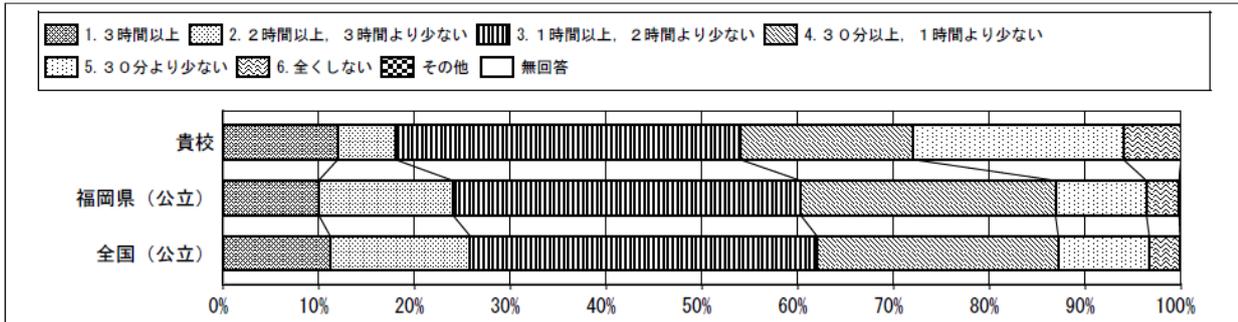


- ・ 自分の考えを人に説明したり文章に書いたりすることを難しく感じている児童の割合は、全国と比べ比較的小さい。
- ・ 相手に自分の伝えたいことを分かりやすく伝えるための言葉の力を、繰り返し学習していくことが必要である。伝えるためのよりよい方法・内容等を身に付けていくようにするとともに、様々な教科の学習で、学習意欲を高めていくことも大切である。

2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

Q, 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師含む)

① 家庭学習習慣に関する調査結果と分析



- ・ 近年、家庭学習時間を増やすことは、改善傾向にある。上のグラフは、平日の1日当たりの学校外での学習時間についてであるが、1時間未満と回答した児童の割合が、全国に比べて比較的高い。
- ・ さらに「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用するとともに、学校で学んだ学習内容を復習したり、自分で計画を立てて自主学習に取り組んだりすることで、家庭学習の絶対量をより増やすようにしていくことも課題である。

② 生活習慣等に関する調査結果と分析

- ・ 自己肯定感を抱かせることは、自分に自信をもたせることであり、生活習慣や学習習慣の形成や定着にも大きく影響してくる。本校では、近年、肯定感をもっている割合は、全国よりやや高い傾向にあるが、今後もさらにどの児童にも自信をもたせていきたい。
- ・ 平日にテレビゲームをする時間の割合については、1日当たり2時間以上ゲームをすると回答した割合が約30%、そのうちの約15%が、4時間以上と回答し、全国と比べてその割合が高くなっている。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ◎ 学力向上に関する定期的な職員研修の実施 ・課題把握の共通認識 ・取組の進捗についての共通理解
- ◎ 学力向上のための全校一斉特設時間の実施、再確認
 - ・ 朝自習の月～金までの学習内容を見直し、全校一斉に実施する。
 - (月・水)・・・全校一斉10分間読書 (火)・・・漢字、言葉の学習 (木)・・・計算の学習 (金)・・・全校視写タイム
- 国語、算数を中心に、基礎的な内容の知識・理解・技能等の実態を細かに見取り、習得を図る学習に努める。
- ◎ 過去問題、アシストシート、活用力を高めるワーク等の活用
 - ・ 冬休み、春休みを中心に、アシストシート、活用力を高めるワーク、学力調査過去問題等を 配布・活用する。
- ◎ 「書く」ことの習慣化 ・研究推進国語科の研究との関連を重視した、重点的取組の実践
 - ・ 学習のめあてを書く、自分の考えを書く、最後の3分間を「振り返りタイム」とし、学んだことをノートに書く。(分かったこと、考えが深まったこと、もっと知りたい・調べたいこと、・・・等、国語科、算数科を中心に取り組む。)

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ◎ 宿題のスタンダード化(時間、学年別・教科別内容)
 - ・ 家庭学習時間の設定(低学年、中学年、高学年)と定期的な見直し
 - ・ 宿題についての学習内容の検討(学年ごとに)、及び自主学習ノートの活用(4, 5, 6年)
 - ・ 「家庭学習チャレンジハンドブック」の活用及び評価・啓発
 - ・ 冬休みや春休みの宿題に、アシストシート、活用力を高めるワーク、全国過去問題等を活用
- ◎ 全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知
 - ・ 学校便りや学校HPによる啓発